断片的都市形態としての中空街区の構成と履歴

THE COMPOSITIONS AND GENEALOGICAL RECORDS OF INNER VOID BLOCK AS A FRAGMENTAL URBAN MORPHOLOGY

藤村 龍至*, 内部 美玲**, 塚本 由晴***

Ryuji FUJIMURA, Mirei UCHIBE and Yoshiharu TSUKAMOTO

In this paper, it is aimed to clarify the character of “inner void block” as a fragmental urban morphology by viewing from spatial compositions and genealogical records. In the first part, the distribution of the inner void block around the residential area in Tokyo is examined by observing the house detailed map. In the second part, the spatial composition of the inner void block is examined by field survey, and the genealogical record of inner void block is examined by observing the land use and its peripheral arrangement of houses in the block in the old maps. In the final part, the typology of the inner void block is led by the relationship between the spatial composition and the genealogical record of block. As a result, the structured characteristics of the inner void block is clarified through the comparison between types.

Keywords: *Fragmental Urban Morphology, Inner Void Block, Spatial Composition, Genealogical Record, Field Survey, Typology*

断片的都市形態, 中空街区, 構成, 履歴, フィールドサーベイ, 類型

1. 序

1.1 研究の背景 構成と履歴からみた断片的都市形態

わが国においては、建築物はひとつの敷地においてひとつずつ建築されることが原則とされ、街区や地区、街並、都市など、より大きな単位で認識される秩序よりも、建築主の自由が優先されてきた。加えて、高度経済成長後の社会の成熟化に伴う価値観の多様化、経済的な競争の激化に伴う高度利用化、防災や安全に対する関心の高まりに伴う重装備化など、建築を取り巻く様々な社会的な要請によって、規模の大小に関わらず、用途の違いにも拘らず、無数の独立型建築物が個別の状況に応じて新築や改築を繰り返す状況がもたらされ、その蓄積は、多様な年代の建築物がランダムに並ぶ独特の都市空間を発達させてきた。

80年代以降、「都市再生」を掲げた諸政策が世界各地で同時進行するなかで、わが国においても積極的な規制緩和策の導入により、周辺の建築物に比して相対的に大規模な都市再開発型の建築物群が続々と展開され、それぞれの開発区域での都市デザインが試みられてきたが、ひとたび区域外との関係に注目すると、その圧倒的な

規模の違いや、建築主体の不連続性によって、都市風景の断片化がますます加速され、都市形態と呼べるような集合的な秩序は見いだしにくくなっている。

建築と都市形態の関係としては、パリやバルセロナ、京都の町家など、個別の建築類型の集合によって都市形態が形成される卓越した都市の事例が挙げられる。東京にそのような明快な関係がみられないと一般的に考えられているひとつの理由には、震災や戦争によって都市形態に壊滅的な打撃を受けて以降、技術的にも法的にもあまりにも短期間で都市環境の整備が行われて来た結果、建築群が都市レベルで形態としてのまとまりを産む機会を失ったまま、建築物が個別の単位に分解され、現象レベルでは集団の建築物群に共通する性質を失っていて、個別化しているように捉えられることが挙げられる。

しかし、法規や都市インフラの整備の進行に伴い、建築物単位で60年間更新を続けて来た結果、流動的であると捉えられがちな東京の都市空間においても、建築群としての秩序や、それに基づいた都市の形態が捉えられるだけの成熟を迎えつつある。したがって複

* 東洋大学 専任講師・修士(工学)

** 青木淳建築計画事務所 修士(工学)

*** 東京工業大学大学院 准教授・博士(工学)

Lecturer, Toyo University, M. Eng.

Jun Aoki and Associates, M. Eng.

Assoc. Prof., Graduate School, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.

数の建築物の集合パタンのなかに都市形態と呼べる形式性を見いだせる潜在的な可能性は期待でき、また、建築物の個々の創作の論理的背景としても、都市形態と呼べる何かを措定しないことには、建築という行為が本来持ちうるはずの社会性に応答するような継続的な建築創作のあり方を考えられないのではないか。

わが国では20世紀を通じて、一方で建築的尺度での建築物の個性を維持しながら、他方で都市的尺度での都市形態の連続性、一体性を評価するような、建築物と都市形態を結びつける共通の建築言語の体系が見いだされてこなかった。そのため、昨今の大規模な都市再開発が社会的な関心を集める一方、生活者にとっての「空間」の質についての議論よりも、都市再生という「政策」が先行する状況に歯止めを掛けることができなかったと考えられる。そのような背景においては、建築と都市の双方を捉え直す共通のカテゴリを見だし、新たな価値を創出することは21世紀を迎えた東京における建築意匠論的課題であるといえる。

1.2 研究の対象と目的

以上のような問題意識に基づき本研究では、建築物が類似の条件のもと個別に更新されていく東京独特の都市空間構成上の原理に基づいて、建築群のレベルで共通の特徴をもった形式を浮かび上がらせつつある事例として、街区の周縁を小規模の建築物で囲まれ内部にオープンスペースをもつ中空の街区（以下、中空街区）に注目する。例えば、中空部に面して庭をとり、その庭にバルコニーや出入口をもつというように、中空部周囲の建築物が同じ構えを反復している場合、個々の建築物と中空街区の性格との間に建築類型と都市形態の応答関係が成立していると考えられる。このような応答関係を広範囲で確認することは現状では困難ではあるが、いくつかの建築物の構えについて、中空部の用途が大きく関与している事例を確認できることから、中空街区の性格との対応において個別の建築物が一定のふるまいの範囲を定め、環境と応答しあうような、より卓越した都市空間の姿を期待することはできるものと思われる。また、中空街区を個と全体の応答関係を担保しうる存在として位置づけることは、個別の建築物が都市体と有機的に結びついた、活気ある都市像を描くための都市論的・建築意匠論的な枠組みとして働く可能性があることを示唆するものである。

本研究では中空街区の性格を明らかにするためにまず、街区内外を関係づける動線による接続から街区の空間構成の形式を導く。さらに、建築物の大きさ・配置およびそれらの通時的な変化による街区の履歴を検討することによって、東京における中空街区の性格の一端を明らかにすることを目的とする。

1.3 既往の研究および中空街区という呼称

これまでの建築類型と都市形態に関わる研究において、両者の関係を扱ったものには、筆者らによる角地建築物と断片的都市形態としての角地の関係を検討したもの¹⁾がある。これは個別の建築物の構成上の特徴に注目するよりも、建築群としてのまとまりに着目し、そこに共通する構成論的特徴を明らかにするものであるが、同様の視座を持つ既往研究としては、都市空間の空地に着目し、その構成を検討したもの²⁾、建築ヴォリュームと周辺環境等、街区スケールにおける建築の集合の形式を論じたもの³⁾などがあるが、本研究のように建築物の群としての構成パターンを、履歴パターンと重ね合わせて検討する研究他ではみられない。

また、「中空街区」という呼称についてであるが、このような呼称で特定の形態を扱う研究はこれまでのところみられない。同様の特徴を持つ都市形態を扱う研究は、西欧諸国における中庭型街区の調査を行ったもの^{4) 5) 6)}、伝統的な住宅を対象とし、住居の類型と街区の形態の関係を論じたもの⁷⁾、わが国における沿道型街区の誘導に関する提言に関わるもの^{注2)}などがみられたが、形態の全体を規定するデザイン・コードに依らず、都市空間を構成する粒としての一般的な住宅の実践が生み出した現象について、都市の複合的な用途の全体が採りうる姿として都市形態を見いだす本研究のような視点はみられない。

他方、行政・実務レベルにおいては、外国の事例に対して「中空街区」という訳語をあてたもの^{注3)}などがみられるが、東京において独自にみられる部分と全体の具体的な応答関係について、それを示す特定の用語は与えられていない。

図1 中空街区の分布（用途別）

図2 中空街区の分布（規模別）

図3 分析例1

図4 分析例2

表1 中空部と中空街区の位置関係

表2 街区内外をつなぐ動線の種類

表3 街区の構成の形式

表3註) 表中()内の数字は該当する事例数を示す。

表4 街区の履歴の形式

表4註) 表中の数字は該当する事例数を、ハッチングは各用途のなかで最大のものを示す。

2. 東京における中空街区の用途、分布

以上のような問題意識、既往研究の分析に基づき、ここではまず、東京都23区内の住宅地図のなかから街区周縁を小規模の建築物で囲まれた中空の街区を選び出し、中空部分に特定の用途が与えられていて街路からアクセス可能なもののうち、400平方メートル以上のものに限定し抽出すると注4) 136の資料が得られた。

中空部の用途は皇居を中心として環状に約4kmのエリアに集中してみられる寺社(66)が最も多く、次いでその外側に多く分布する公園(40)、駐車場(22)、小中学校・保育園(8)の順に多くみられた(図1)。中空部の大きさは1000平方メートル以下のものがほぼ半数を占めるが、それ以上では最大で11000平方メートルのものまでばらつきがみられ、これらの街区は住居地域だけでなく、商業地域や準工業地域などあらゆる用途地域にみられた(図2)。このように、中空街区は敷地が道路に接道する法規上の義務と、比較的短期間で建築物が更新されるという事情、および住宅地における土地の細分化といった理由により、東京(東京都23区内および新宿を中心として半径20km以内の範囲)の住宅地において比較的均等に分布しており、ひとつの遍在的な断片的な都市形態の現れとして捉えられることがわかる。

3. 中空街区の構成と履歴

3.1 中空街区の構成

分析例1(図3)では建物1棟を介して囲まれた学校の敷地となっている中空部に3つの通路でアクセスしている。このように街区の外周から建築物1棟を介して囲まれた中空部をも一重の街区(中空部を囲む1列の建築物群)に対し、分析例2(図4)では街区周縁から伸びる2本の路地によって公園と街路が接続している。このような中空部が街区の奥まった位置にみられる多重の街区(中空部を囲む複数列の建築物群)には街区内外の接続の仕方に種類がみられる。動線の種類には中空部に備わる用途のための設えのある「参道」と建物間の道や住戸への入り口をもつ「路地」がある。またピロティなど建築物下を通してアクセスする「建物」、中空部の一部が街路に接続する「接道」がある(表2)。

これらの分析例のようにここではまず、中空部と街区の位置関係と街区内外の接続の仕方を検討することによって街区の構成の形式を見いだした。多重の街区で路地によってのみ街路とつながるものでは、駐車場に最も多くみられる、接続が一つで袋小路となっている「単路地型」と、公園に最も多くみられる、複数の路地によって街路とつながり通り抜け可能な「多路地型」がある(表3, 6)。寺

表5 中空街区の類型

構成の形式 履歴の形式	多重					一重		接道型
	単路地型	多路地型	単参道型	参道・多路地型	多参道型	隙間型	通り抜け型	
不変
建込み
立ち退き
周囲高密度化
周囲増加

表5註1) 表中の下部の数字は年代を示す。
表5註2) 表中の数字は該当する資料番号を示す。

表6 資料リスト

資料名		立地			構成の形式	履歴の形式	類型	資料名		立地			構成の形式	履歴の形式	類型	
		区	用途	用途地域						区	用途	用途地域				
63	海蔵寺	品川	寺	1住	近商	単路 多路		75	駐車場 桜新町	世田	駐	1低	近商	単路		G
81	荘厳寺	渋谷	寺	1住	近商			49	八広フジキ駐車場	墨田	駐	準工				
74	上馬東公園	世田	公	1中				51	駐車場 文花	墨田	駐	準工	商			
129	白鷺児童遊園	葛飾	公	準工				56	NKパーキング	江東	駐	準工				
6	蓮乗寺	港	寺	商	1住	単参	A	72	羽根木二丁目公園	世田	公	1住	近商	多路	立ち退き	H
11	牛込弁天公園	新宿	公	1中	近商			102	亀の子東子駐車場	北	駐	1住	近商			
24	本駒込2-3	文京	寺	1住	近商			97	小倉駐車場	豊島	駐	1中	近商			
36	光明寺	台東	寺	商				116	斎藤江北駐車場	足立	駐	1住				
38	了源寺	台東	寺	商				78	駐車場 等々力	世田	駐	1低				
40	西光院墓地	台東	寺	商				12	あかぎ児童遊園	新宿	公	2住				
60	本立寺	品川	寺	1低	1中			68	油面住区センター児童遊園	目黒	公	1中				
66	東光寺	品川	寺	1住	近商			73	駐車場 北沢	世田	駐	1低				
10	宗参寺	新宿	寺	1中	近商			115	駐車場 鹿浜	足立	駐	1住	近商			
20	笹寺	新宿	寺	1中				9	高輪台遊び場	港	公	1住	近商			
22	宗福寺	新宿	寺	1中	2中			45	八広つるかめ児童遊園	墨田	公	準工	商			
25	心光寺	文京	寺	1住	商			71	平張第二児童公園	大田	公	1低				
33	英信寺	台東	寺	商				133	東小松川東公園	江戸	公	1住	近商			
101	自性院	北	寺	1住	近商			131	駐車場アベニール	江戸	駐	1住	商			
106	浄正寺	荒川	寺	準工	商			130	しぶえ南児童遊園	葛飾	公	準工				
21	長安寺	新宿	寺	1中				111	平尾児童遊園	板橋	公	1住				
16	幸國寺	新宿	寺	1住		98	北大塚二丁目児童遊園	豊島	公	1住						
84	初台児童遊園地	渋谷	公	1低		54	亀戸3丁目公園	江東	公	準工						
79	浄真寺墓地	世田	寺	1低	近商	70	東雪谷四丁目公園	大田	公	1中						
32	円光寺	台東	寺	1住	商	47	さくらんぼ児童遊園	墨田	公	商						
14	筑土八幡神社	新宿	寺	2中	2住	61	峰原公園	品川	公	1住						
15	金龍禅寺	新宿	寺	1住	商	65	浅間台公園	品川	公	1住	近商					
99	雑司ヶ谷保育園	豊島	学	1中		135	西一之江四丁目公園	江戸	公	1住	商					
62	戸越八幡神社	品川	寺	1住	近商	91	定石管理駐車場	杉並	駐	1中	商					
86	若宮公園	中野	公	1低		107	荒川東公園	荒川	公	準工						
64	願行寺	品川	寺	1住	近商	108	東日暮里3丁目公園	荒川	公	準工						
19	余丁町児童遊園	新宿	公	1住	近商	31	岡倉天心記念公園	台東	公	1住						
55	靈蔵寺	江東	寺	準工	近商	57	東砂六丁目公園	江東	公	準工	近商					
35	聖徳寺	台東	寺	商		136	西船堀公園	江戸	公	1住	近商					
41	墓地 鳥越	台東	寺	商		104	荒川2丁目公園	荒川	公	準工						
52	法恩寺墓地	墨田	寺	準工	商	18	ユアパーキング	新宿	駐	商						
27	青戸2 駐車場	葛飾	駐	1住	商	44	フルスター・コム駐車場	墨田	駐	準工						
59	浅間堅川小学校	江東	学	準工		114	豊玉中1 駐車場	練馬	駐	1中	近商					
34	天眼禅寺	台東	寺	1住	近商	42	墨田第三児童遊園	墨田	公	準工						
103	町屋第四児童遊園	荒川	公	準工		83	リパーク道玄坂2	渋谷	公	駐	商					
28	宝泉寺	葛飾	寺	工		48	八広一丁目公園	墨田	公	準工						
23	天栄寺	文京	寺	1住	商	96	スカイパーキング	豊島	駐	1中	近商					
109	龍福寺霊園	板橋	寺	1住	近商	100	志茂四丁目児童遊園	北	公	1中						
37	長敬寺	台東	寺	商		3	法典寺	港	寺	2住	商					
121	駐車場 千住	足立	駐	準工		28	還園寺	文京	寺	1低	1住					
105	観音寺	荒川	寺	準工	商	77	善宗寺	世田	寺	1低						
92	馬橋稲荷神社	杉並	寺	1低		2	持法寺	港	寺	1住	商					
95	石川駐車場	豊島	駐	1中	近商	76	真福寺	世田	寺	1住	近商					
117	駐車場 梅島	足立	駐	準工	1住	1	日枝神社	中央	寺	商						
29	多福院	文京	寺	1中	商	5	正光院	港	寺	1中	近商					
39	真敬寺	台東	寺	商		50	本久寺	墨田	寺	近商						
46	朝鮮第五初中級学校	墨田	学	準工	商	4	妙善寺	港	寺	2中	近商					
112	浅間神社	練馬	寺	準工	近商	13	赤城神社	新宿	寺	2中	準工					
26	堀切加波良児童遊園	葛飾	公	1住		8	妙園寺	港	寺	1住	近商					
93	医王寺	杉並	寺	1低		110	若木児童遊園	板橋	公	準工						
24	善慶寺	足立	寺	1住		132	東小松川一丁目広場	江戸	公	準工						
94	高井戸不動尊	杉並	寺	1低		53	長寿禅寺墓地	江東	寺	商						
134	城立寺	江戸	寺	1住		118	本木二丁目公園	足立	公	準工	近商					
67	正覚寺	目黒	寺	1中	1低	85	鎌倉小学校	中野	学	1低						
87	丸山塚公園	中野	公	1低	近商	7	正源寺	港	寺	1中	商					
88	沼袋公園	中野	公	1低	近商	26	善心寺	文京	寺	準工	商					
120	梅田二丁目児童遊園	足立	公	準工	近商	17	光照寺	新宿	寺	1住						
125	舎人小学校	足立	学	1中	1住	113	本照寺	練馬	寺	1低	近商					
90	四宮森公園	杉並	公	1低		89	福寿院	中野	寺	1中	1住					
58	第三砂町小学校	江東	学	1住	2住	30	長泉寺	文京	寺	1住	1低					
119	第九中学校	足立	学	準工	近商	122	サイバルパーキング竹ノ塚	足立	駐	近商						
27	浩妙寺	文京	寺	1中	近商	43	墨田稲荷神社	墨田	寺	準工						
123	保木間幼稚園	足立	学	1中	1住											
69	熊野神社	目黒	寺	1低												
82	隠田神社	渋谷	寺	1住												
80	天祖神社	世田	寺	1低	2低											

表6註) 江戸:江戸川 世田:世田谷 寺:寺社 駐:駐車場 公:公園 学:学校 1低:第1種低層住居専用地域 2低:第2種低層住居専用地域

1中:第1種中高層住居専用地域 2中:第2種中高層住居専用地域 1住:第1種住居地域 2住:第2種住居地域 近商:近隣商業地域 商:商業地域 準工:準工業地域

業地域 工:工業地域 路:単路地型 多路:多路地型 単参:単参地型 参路:参道・多路地型 多参:多参地型 隙:隙間型 通抜:通り抜け型

社の参道や公園のアプローチなど街路から中空部専用の動線が引き込まれているものでは、寺社に最も多くみられ、該当する事例数が最も多い、一つの参道のみで接続する「単参道型」、参道以外に路地等によってもつながる「参道・多路地型」、さらに公園に多くみられる複数の引き込みを持ち他方向で街路とつながる「多参道型」がある。また、一重のものには「隙間型」や、ピロティ部を通り抜けるなど建築物を介してのみ街路と接続している「通り抜け型」がある。そして中空部の一部が接道している「接道型」では、半数以上の事例が神社であり、奥へと進むにつれ幅の広がる特徴的な中空部の形をしている。

3.2 中空街区の履歴

このような特徴的な構成をもつ中空街区は、スタティックな都市形態として最初からあるものというよりは、徐々に建て込んだり、立ち退きによって突然中空部が発生したりというように、ダイナミックにその形態が構成されてきたものであるといえる。したがってそれらの街区の構成は、建築物群の構成を、その履歴と併せてみることによって、その特徴をより正確に捉えられると考えられる。

そこでここでは住宅地図を用い、1960年代以降の建築物の大きさと配置を検討する。するとここでは、40年間中空部の状態が維持されてきた「不変」のものと、過去40年間に中空部をもたない街区が中

空部を形成するまでの過程がみられたもの、すなわち街路に開いたオープンスペースであった場所が道路沿いから建築物が建つことによって徐々に囲まれる「建込み」、建築物によって全体が占められていた街区において内側に建つ工場や銭湯など規模の大きな建築物や住宅数件が取り壊されることによってオープンスペースが現れた「立ち退き」、周囲の建築物の規模が大きく密になることで隙間なく囲まれる「周囲高密度化」、周囲から内側に向かい建築物が建つことで中空部が縮小していく「周囲増加」の4つがみられた。

立地を検討すると、「建込み」は開発が遅れて進んだ郊外に多くみられ、「立ち退き」はかつて工場が多く建ち並んでいた墨田区など荒川周辺に多くみられた。「周囲高密度化」は港区や文京区など、近年高層ビルの建築が多くみられる地域に分布している。またこれらの履歴の形式を中空部の用途と比較すると、「不変」は寺社が多く(35/47 74.5%)、「立ち退き」は中空部が公園(25/42 59.5%)や駐車場(17/42 40.5%)として使われていた事例が多い、というように対応がみられた(表4)。

4. 中空街区の構成と履歴からみた類型

以上、東京の建築物の配列によってつくられる中空街区を抽出し、街区内外をつなぐ動線による空間構成の形式と建築物の大きさ・配置の変化から履歴の形式を導き出した。ここでは、前章までの検討によって導き出したこれらの形式を重ねることにより中空街区の類型を抽出し、中空街区を東京における都市形態のひとつとして位置づける。

ここではまず、街区の構成の形式を横軸に、履歴の形式を縦軸にマトリクスを作成する。このとき、論理上導かれる全40カテゴリに対し、事例数は134、平均事例数はカテゴリあたり3.35例であることから、共通の構成と履歴の形式をもつ街区が4事例以上みられたものを中空街区の類型として抽出した。

街区周縁の建築物に変化がなく長く維持されている「不変」では「単参道型」の類型A、「参道・多路地型」の類型B、「隙間型」の類型Cともに、寺社が多くみられた。類型Aはもっとも多く事例がみられたまとまりである。近年外周道路沿いの建築物群の建築によって中空部が徐々に形成された「建込み」のなかで「単参道型」をもつ類型Dでは同じく寺社が多くみられ、「多参道型」の類型Eでは公園の一部がのびて街路と複数の接続をもつ外部へと開いた公園が、「隙間型」の類型Fでは学校が、それぞれ多くみられた。突然中空部が出現する「立ち退き」のなかで「単路地型」をもつ類型Gは、現状ではそれらのほとんどが駐車場として使用されているが、今後建築物の増加により中空部が消滅することも考えられる。同じ「立ち退き」であり「多路地型」である類型H、「単参道型」である類型I、「参道・多路地型」である類型Jは、いずれも街区内の奥まった地点にみられる公園が多い。また建築物が中空部に対し建てせまる「周囲増加」のなかで「単参道型」の類型Lでは中空部に寺社のみがみられた。一重と多重を比較すると、多重にはより多様なアクセスがみられ、履歴においては履歴の形式と中空部の用途に一定の対応関係がみられた。

5. 結

以上、東京の都市空間から断片的としての中空街区を抽出し、建築物の位置関係と街区内外をつなぐ動線の種類、およびその組み合わせから中空街区の構成の形式を整理した。また、中空街区の構成と中空部の用途の変化から、中空街区の履歴の形式をみいだした。さらに、

中空街区の構成と履歴を重ね合わせ合わせ中空街区の類型を導いた。

このように本研究ではそれぞれの建築物が一定の周期で個別に建て替わっていく状況に注目し、空間構成を変化の履歴との関係で検討したが、重要な背景として、東京の住宅地においては建築物の敷地が年代を追う毎に次第に細分化されていく状況があると考えられる。

また、今後の課題のひとつに、一定の周期で更新される建築物から構成される街区同様、一定の周期で更新される建築条件の問題も挙げられる。実際の街並を眺めると、個々の建築物は決して同じ条件のもとに建築されておらず、その時々規制のありようによって全く異なる構えを取ることがわかる。そこで、建築物の群としての配列を、敷地の形状や用途の変化の履歴のみならず、建築基準法や都市計画法、各種の条例などの施行や改正に伴う建築条件の変化を併せて検討することで、より明らかになる都市形態、およびそれに関係づけられた個々の建築物の構成についても今後検討を加えていくこととしたい。

参考文献

- 1) 藤村龍至, 佐々木啓, 塚本由晴: 角地建築物の構成からみた建築類型と断片的都市形態の関係, 日本建築学会計画系論文集 No.630, pp.1819-1824, 2008.8
- 2) 安森亮雄, 坂本一成, 寺内美紀子: 建築ボリュームに囲まれた都市の空地の構成形式 現代日本の都市空間における空地の構成形式に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 No.568, pp.69-76, 2003.6
- 3) 美濃部幸郎, 坂本一成, 寺内美紀子: 周辺環境との隣接関係からみた都市建築の統合形式: ヴォリュームの配列による現代建築の統合形式に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 No.558, pp.137-144, 2002.8
- 4) 北原寛司, 小林はるか, 金子晋也, 是永美樹, 八木幸二: フォブール・サントントワヌ地区における公開された中庭空間の構成 パリにおける街区内部の外部空間の構成に関する研究 日本建築学会計画系論文集 No.635, pp.113-120, 2009.1
- 5) 服部孝生, 鈴木雅之: 「ドイツを中心とするヨーロッパ中庭型住宅の住棟・住戸計画 都市型集合住宅都市型集合住宅の建築計画」 日本建築学会計画系論文報告集 No.442, pp.37-45, 1992.12
- 6) 服部孝生, 鈴木雅之: 「ドイツを中心とするヨーロッパ中庭型住宅の住棟・住戸計画 都市型集合住宅都市型集合住宅の建築計画(2)」 日本建築学会計画系論文報告集 No.446, pp.17-25, 1993.4
- 7) 山田協太, 前田昌弘, 村上和, 布野修司: 「ヴォルフエンダール(コロンボ, スリランカ)の街区構成と住居類型」 日本建築学会計画系論文集 No.607, pp.71-78, 2006.9

注

注1) 本研究は、藤村龍至, 内部美玲, 塚本由晴ほか: 「東京における中空街区の構成と履歴」 「東京の都市形態としての中空街区の構成」, 2008年度日本建築学会学術講演会における発表論文(梗概集F-2, pp.701-704)として一部報告したものを、改めてまとめたものである。

注2) 一例として群馬県渋川市における原広司らによるプロジェクトなど。

注3) 一例として Blockbebauung(ドイツ語)に「中空街区方式」という訳語をあてたものなど。

注4) 「中空部」の面積は10,000m²のものが1例あるほか、1000m²以下のものが約半数を占め、ばらつきがみられるが、抽出条件の設定に際しては、隣接する敷地の数を検討した。資料を比較し隣接する敷地の数を検討すると、中空部の面積が10000m²では30-40軒程度の周囲の敷地に、4000-2000m²で20軒程度に、およそ400m²以上を目安にすると約10軒程度の土地に隣接することが判明したが、それ以下となると各辺に対して1:1もしくは1:2程度の固定的な関係になってしまうことから、中空部とその周囲の間に関係が生まれる最小限の面積の設定として400m²が適当であると判断した。なお、東京都における個人住宅の敷地面積の平均値(90.76m²・H20年住宅・土地統計調査/総務局)を考慮すると、この面積は4軒程度の住宅の跡地となる。

(2010年3月10日原稿受理, 2010年9月14日採用決定)